

ドイツ語（初級B） 第29回 esの用法（2）、数詞（2）

範囲：教科書 S. 67-69（CDトラック 87-88）

《今回の基本例文》

99. Er wartet darauf, endlich befördert zu werden. (CD87-2)

彼は、やがて昇進させてもらえるのを待っている。

[esの用法（**仮目的語 es**）、zu不定詞を受ける前置詞と人称代名詞の融合形、**zu不定詞**（受動不定詞）]

100. Wann ist dein Vater geboren?

– Er ist am neunzehnten Juni neunzehnhundertsiebenundachtzig geboren. (CD88-3)

君のお父さんはいつお生まれですか？ – 父は1987年6月19日に生まれました。

[**序数、西暦年、月日**、(状態受動)]

教科書第17課 A. esの用法（2）：後続の語句を先取りする es (S. 67)

教科書1 名詞・代名詞を先取りして（仮主語として）

◇ あくまでも本来の主語は es ではなく後続の名詞や代名詞なので、その名詞や代名詞が1格となることに注意。

* Es war niemand zu Haus.は Es gab niemand[en] zu Haus.と同義だが、前者の niemand は主語=1格、後者の niemand[en]は他動詞 geben の目的語=4格。

◇ es passiert...や存在を表す es ist...のような決まった言い方の場合、あるいは文学的文章で書き出しを示したり語調を整えたりする場合のみに使われる。

◇ 英語の it には存在せず、ドイツ語の es 特有の表現と考えてよい。

教科書2 副文を先取りして

◇ 英語の it にも存在する用法。語順にのみ注意。

◇ 副文を先取りする**仮主語 es**については、すでに学んでいる。 (⇒教科書 S. 35)

◇ 仮主語 es が先取りできるのは名詞や代名詞に相当する要素だけなので、副文のなかでは名詞節（dass 節、ob 節、疑問詞を用いた間接疑問文など）を先取りできる。

(例) Es freut mich, dass du kommst.

(仮主語) (動詞) (目的語) (名詞節=本来の主語)

君が来てくれることが、私を喜ばせる。

Mir ist es ganz egal, was sie über mich denkt.

(動詞) (仮主語) (述語内容語) (名詞節=本来の主語)

彼女が私について何を考えるのかは、私にとってどうでもよい。

* mir は「私にとって」。was sie über mich denkt は間接疑問文 (教科書 S. 35)。前置詞 über は「～について」の意味 (授業第 8 回配付資料 S. 3)。

教科書 3 zu 不定詞句を先取りして

- ◇ 英語の it にも存在する用法。語順にのみ注意。
- ◇ zu 不定詞句を先取りする**仮主語・仮目的語 es**についても学習済。(⇒教科書 S. 65)

(例) Es freut mich, Sie kennenzulernen.
(仮主語) (動詞) (目的語) (zu 不定詞=本来の主語)

あなたと知り合えることが、私を喜ばせる。

Ich habe [es] wieder einmal vergessen.
(主語) (現在完了) (仮目的語) (過去分詞)

ihm das Geld zurückzugeben.

(zu 不定詞=本来の目的語)

私は、彼にお金を返すことを、まともや忘れてしまった。

* 仮目的語の es は、ある方が好まれるが、なくても間違いではない。

** zurück|geben は他動詞で「〈3 格〉に〈4 格〉を返却する」。

- ◇ zu 不定詞句が前置詞の目的語となる場合、zu 不定詞の前には、その前置詞と人称代名詞の融合形 (da[r]+前置詞) が置かれる。要するに、前置詞と仮目的語の es が融合形になる、と考えればよい。主に前置詞と動詞や形容詞による熟語 (教科書 S. 24、教科書 S. 65) に対して用いられる (授業第 27 回ですでに詳しく説明した)。

(例) × Ich bitte Sie ~~um~~ es, möglichst pünktlich zu sein.

→ ○ Ich bitte Sie darum,
(主語) (動詞) (目的語) (前置詞+仮目的語)

möglichst pünktlich zu sein.

(zu 不定詞=前置詞の目的語)

私はあなたに、できるだけ時間通りにすることをお願いしている。

* *jn. um et^t. bitten* *jn.に et^t.を依頼する* (⇒教科書 S. 24)

教科書 Übung 1 (CD トラック 87)

3. mit et³. rechnen et³.を計算に入れる

補足練習問題

() 内の指示に従い、以下の日本語の意味になるようにドイツ語作文をせよ。[] 内に語彙が与えられている場合は、それを用いること (各語彙は適切なかたちに変化させなければならない場合もある)。

-
1. この川で泳ぐのは危険である。(仮主語 *es* を用いないで)
[*gefährlich adj.* 危険だ *in diesem Fluss* この川で *schwimmen vi.* 泳ぐ]
 2. この川で泳ぐのは危険である。(仮主語 *es* を用いて)
 3. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。(仮主語 *es* を用いないで)
[*Museum n.* 美術館 *fotografieren vi.* 写真を撮る *verboten adj.* 禁止された]
 4. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。(仮主語 *es* を用いて)
 5. 彼は明日、はやく起きるつもりである。(仮目的語 *es* を用いないで)
[*früh adv.* 早く *auf|stehen vi.* 起きる ~を計画している *vt. vor|haben*]
 6. 彼は明日、はやく起きるつもりである。(仮目的語 *es* を用いて)
 7. 彼女はラテン語を学びはじめる。
[*Lateinisch n.* ラテン語 *mit et³. an|fangen* (3 格) をはじめる]
 8. 彼はドイツ語を学ぶのを諦めねばならなかった。
[*auf et⁴. verzichten* (4 格) を諦める]
 9. 君と映画に行く時間はない。
[*Zeit f.* 時間 *ins Kino gehen* 映画に行く]
 10. 私はベルリンに事務所を開く計画を持っていた。(現在完了で)
[*Büro n.* 事務所 *auf|machen vt.* ~を開く 計画 *m. Plan*]
 11. 私は自動車を買うためにお金を貯めている。
[*Auto n.* 自動車 *Geld sparen* お金を貯める]
 12. 私の同僚は、日本文化についての講演を行うためにベルリンに行った。(現在完了で)
[同僚 *m. Kollege* 日本文化 *japanische Kultur* 講演を行う *einen Vortrag halten*]
-

教科書第 16 課 B. 数詞 (2) : 序数

〈序数について〉 (補足)

- ◇ **序数**は「～番目の」を表す数詞で、英語の *first, second, third...*に相当する。
- ◇ 付加語として用いられるので、付加語的用法の形容詞と同じ変化をする。もちろん、前に付いている冠詞 (類) によって強変化、弱変化、混合変化の 3 種類がある。
(⇒教科書 S. 39-40)
- ◇ 序数のつくり方は、
 - ・ ~19 : **基数+t**
 - ・ 20~ : **基数+st**
 - ・ 例外 : **erst** (1) , **dritt** (3) , **acht** (8)
- ◇ 建物の「階」は、日本語や英語における 1 階を *Erdgeschoss* (*n.* 地階) と呼び、日本語や英語における 2 階以降を *n-1* の序数を用いて表す。「階」は *Stock* (*m.*) か *Etage* (*f.*)。
(例) *im ersten Stock* (*in der ersten Etage*) 2 階に

◇ 高校以前の「**学年**」は、最初の小学校入学からの通算年数を序数で表す。地域によって異なるが、一般的には小学校 (*Grundschule f.*) が4年制、ギムナジウム (*Gymnasium n.*) が9年制。大学以降は、あまり学年という考え方をせず、在籍した学期 (*Semester n.*) 数を言うことが多い。

教科書1 月日・西暦年数 (S. 68)

◇ ドイツ語の西暦年月日は、日一月一年の順。日本語（年一月一日）とも米式英語（月一日一年）とも異なり、英式英語と同じ。「日」を算用数字で書いた場合、句点を打つ。

(例) 2019年12月16日

16. Dezember 2019 = der sechzehnte Dezember zweitausendundneunzehn

December 16, 2019 = December [the] sixteenth, two thousand nineteen

◇ 「**日**」は、「～日に」と言うとき、前置詞 **an** を用いる。ただし、日は男性定冠詞つき序数で表すので、実質的には **an+dem** の融合形の **am** が現れる。その際、**dem** が定冠詞なので、もちろん序数の変化形は弱変化になる。(⇒教科書 S. 39)

- ・年月日をすべて言うときは、前置詞は **an** (**am**) だけでよい。
- ・ただし、手紙などに日付を書く場合は、副詞的4格により

Tokyo, **den** 16. Dezember 2019

- ・「曜日」は、教科書 S. 69にあるものを覚える。「何曜日に」は、やはり **am** を用いる。

◇ 「**月**」は、「～月に」と言うとき、前置詞 **in** を用いる。ただし、月名はすべて男性で定冠詞をつけるので、実質的には **in+dem** の融合形の **im** が現れる。

- ・月名については、やはり教科書 S. 69にあるものを覚えること。
- ・英語と異なり、「月」は正式な名称の代わりに数字（日本語の **n** 月と同じ）で表すことがあり、その場合は「日」同様に序数を用いる。

◇ 「**西暦年**」は、「～年に」と言うとき、通常は前置詞を用いず、副詞的4格とする。

◇ 西暦年の考え方は、

- ・1年から1099年まで、2000年以降：単なる基数

・1100年から1999年まで：**上2桁+hundert+下2桁**

* 上2桁と下2桁を分けて考えるのは英語と同じだが、ドイツ語では **hundert** が必要 (〇〇×100+△△という考え方)。また、英語と異なって分かち書きもしない。

(例) 1999 : neunzehnhundertneunundneunzig

1999 : *nineteen ninety-nine*

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 教員のウェブサイト：http://hasegawa.la.coocan.jp/

授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/